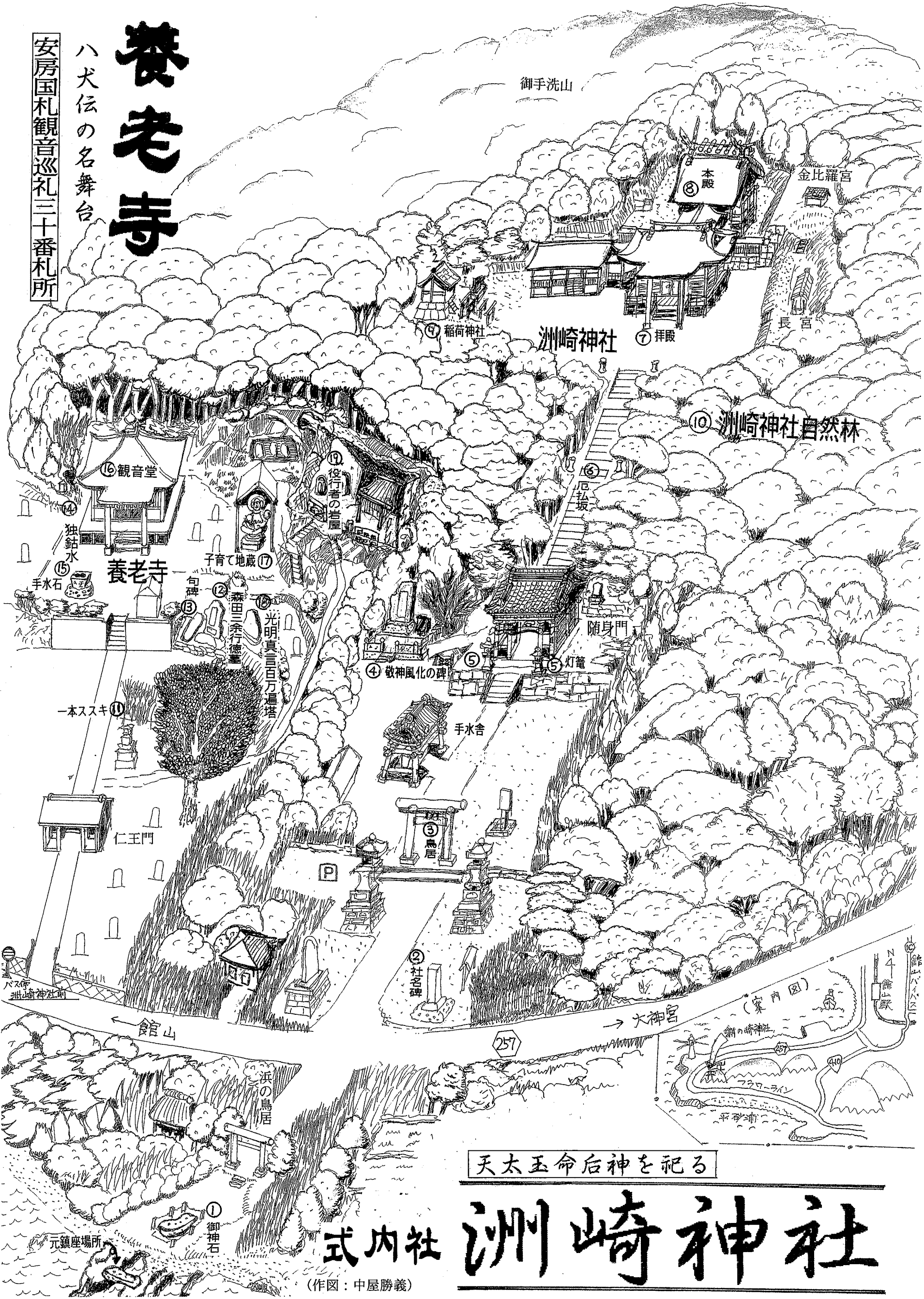


安房国札観音巡礼三十番札所

八犬伝の名舞台

# 養老寺



御手洗山

金比羅宮

本殿

長宮

稲荷神社

洲崎神社

拝殿

洲崎神社自然林

観音堂

役行者の音屋

養老寺

子育て地蔵

光明真言百万遍塔

随身門

敬神風化の碑

灯籠

手水舎

仁王門

一本ススキ

天太玉命后神を祀る

式内社

# 洲崎神社

(作図：中屋勝義)

# 洲崎神社と養老寺の文化財解説

## 洲崎神社（すのさきじんじや）と養老寺（ようろうじ）の概要

洲崎神社は館山市洲崎字神官免（じんがんめん）にあります。東京湾の出入口を見下ろす場所であることから、古来、漁師にとっての漁業神、船乗りにとっての航海神でした。祭神は天比理乃咩命（アメノヒリノメノミコト）といい、安房開拓神話に出てくる忌部一族の祖神天太玉命（アメノフトダマノミコト）の后神です。平安時代には朝廷から正三位の位を与えられ、源頼朝が伊豆での挙兵に失敗して安房へ逃れたときには当社に参拝して坂東武士の結集を祈願したことは有名な話。中世には品川・神奈川など東京湾内の有力な港町にも祀られました。例祭は8月21日。中世には修験が7か寺あったといい、江戸時代には社務所の県道寄りに別当寺を務めた吉祥院があって、神社の社領5石を管理していました。

養老寺は神社に隣接する真言宗寺院で、正式には妙法山観音寺といい、江戸時代まで洲崎神社の社僧を勤めていました。養老元（717）年に役行者を開祖として創建されたと伝えられ、本尊は洲崎神社の本地仏である十一面観世音菩薩です。境内にある石窟と独鈷水は役行者との関係性を伝え、曲亭馬琴の長編伝奇小説『南総里見八犬伝』の舞台としても知られています。また洲崎に多い頼朝伝説は当寺にも伝えられています。

① 御神石 浜に祀られている長さ2.5mの丸みを帯びた細長い石は付近の岩石と異なる。竜宮から洲崎大明神に奉納された二つの石のひとつとされ、もうひとつは三浦半島に飛んでいったという。それは浦賀の西にある安房口神社にあり、先端に円い窪みがあることから「阿形」にたとえられ、洲崎の石が口を閉じたような裂け目があることから「咩形」となり、狛犬のように東京湾の入り口を守るように祀られている。

② 社名碑 「一宮洲崎大明神」とあるのは、二殿一社とされる式内社の天比理乃咩命神社が、洲崎神社を拝殿として一宮、洲宮神社を奥殿として二宮とされてきたことにより、別称「安房一宮」として尊崇されてきたことによると考えられている。碑は文政3（1820）年に吉祥院の別当賢秀が設置した。

③ 鳥居の大注連縄（おおしめなわ） 高さ約15mの神明鳥居に、長さ13mの大注連縄が掛けられている。当地では毎年1月8日の朝に神社へ集まり、神賀会という仲間で大鳥居に掛ける注連縄をつくる。その注連縄の中央につける木札には「久那戸大神」とある。巷に立って災禍を防ぎ庶民を守る道祖神であると伝えている。

④ 敬神風化の碑 関東大震災（大正12＝1923年）と昭和大津波（昭和11＝1936年）の両度の災害にも屈せず、地区民が一丸となって、洲崎神社と栄ノ浦・間口2漁港の復旧に尽力したことの顕彰碑である。総高3.5mの粘板岩。題字は玄洋社社長山崎の筆、撰文と書は明治大学教授で伝説学者の藤沢衛彦。昭和12年建立で、発起人10人と漁業組合員47人の名が刻まれている。

⑤ 石灯笼 隨身門前に一対で置かれている。火袋は日月型に開けられている。表面の剥落が著しいが、台座に寛政2（1790）年7月建立を示す文字が見える。

⑥ 厄祓坂（やくばらいざか） 148段の急勾配の石段のこと。階段の中段と最上段の両脇にある2対のコンクリート柱は、御浜出する神輿が急勾配の石段を昇降する際に、神輿を支える危険防止の支柱である。坂の名は、急峻な石段を敬虔な気持ちでのぼり参詣することで、厄落としが出来るとして命名されたそうである。

⑦ 拝殿 正面の扁額「安房国一宮洲崎大明神」は文化9（1812）年の奉納。房総の海岸警備の任にあった白河藩主松平定信の書である。拝殿内には潮の難所での航海安全を祈願して奉納された「潮のみち」の絵馬がある。

⑧ 本殿 神社建築としては唐様三手先の組物を用いているのが珍しい。木鼻や欄間の彫刻も見事で、江戸初期の本齋殿も見られる。延宝年間（1673～80）の造営とされるが、その後の大規模改修がみられる。市指定文化財。

⑨ 稲荷神社 祭神は宇迦之御霊命で、五穀豊穡の神とされている。鳥居の右手に勧請の由来を記した石碑があり、安永元（1772）年に伏見稲荷大社の分社として別当の吉祥院が請来したことがわかる。

⑩ 洲崎神社の自然林 本殿裏の御手洗山には、スタジイ・ヤブニッケイ・タブノキ・ヒメユズリハなどの常緑樹が自然林を形成して

いる。昭和47年に県の天然記念物に指定されている。

⑪ 一本すすき 観音堂前の一群のススキのことである。源頼朝が洲崎神社へ参詣したおり、昼食時に箸の代用にしたススキを地に挿し、「わが武運が強ければここに根付けよ」というと、のち数茎に根付いたという伝承があり、土地の人は「一本すすき」と呼んでいる。

⑫ 森田三餘（さんよ）行徳（ゆきのり）の墓 森田行徳は洲崎の人で、三餘はその号である。江戸末期から明治の初めにかけて自宅で寺子屋を開き、地域の子の教育に情熱を捧げた人。この墓は師匠の徳を偲んで、教え子たちが昔塾中として、明治28（1895）年に建立した。三餘の法名は樂善水山仁寿居士。

⑬ 筆塚句碑 「菅の間の蝶や二葉を植し棕櫚」とある。作者「素水」は洲崎の渡辺家に生まれ、館山の医師鈴木正立家を継いだ人。文政5（1822）年に筆塚として建立した。

⑭ 独鈷水（どっこすい） 観音堂の左裏手の山すそに、役行者の霊力で湧いたという独鈷水という湧水があり、草天にも涸れることがないといわれている。

⑮ 手水石 上面がひょうたん型に削りぬかれている。施主は「吉郎兵衛・清五郎・九蔵・堅秀」とあり、安永7（1778）年4月の奉納。

⑯ 観音堂 鬱蒼とした樹林を背に屋根に金色の宝珠が輝き、下見部分が朱塗りの観音堂。本尊の十一面観音は安房国札観音の三十番札所で、ご詠歌は「観音へのぼって沖をながむれば上り下りの船ぞ見えける」。向拝に後藤義光の師後藤三四郎恒俊の彫刻が施されている。

⑰ 子育て地蔵 右手に幼い子を抱き、左手に宝珠を捧げ持つ半跏地蔵尊。台座に願主・世話人各2人の名があり、寛政9（1797）年の建立とある。この「子育て地蔵」が「子育て保育園」の名前の由来である。

⑱ 光明真言（こうみょうしんごん）百万遍塔 光明真言は真言密教の呪文で、これを何万回も唱えようと一切の罪業が消滅するという。この塔は文化8（1811）年に近間孝治が百万遍を達成した記念のもので、裏面に「観音のぎせいをここに立置てなむ阿弥陀へと廻すす玉」という歌がある。

⑲ 役行者（えんのぎょうじゃ）の岩屋 境内の岩肌に掘られた岩窟に役行者の石像が祀られている。奈良時代の人で修験道の開祖。妖術で人を惑わすとして伊豆大島に流罪になった。社伝では、養老元（717）年に大地変がおき境内の鐘ヶ池が埋まって鐘を守っていた大蛇が災いをおこしたとき、祈禱をして大蛇を退治したのが役行者だとしている。海上歩行や空中歩行の神通力を持つことから足の守護神され、岩屋の前には多くの履物が奉納されている。八犬伝では、役行者の化身が伏姫に仁義礼智忠信孝悌の八字が浮かぶ数珠を授けるという場面に登場する。

洲崎踊り 8月21・22日の例大祭に奉納される踊りで、弥勒踊りと鹿島踊りからなる。前者は左手に櫛と幣束をつけたオンベ（御幣）と呼ばれる棒、右手には日の丸の扇をもち、太鼓や唄にあわせて踊るもの。後者は扇だけで踊る伝統芸能で、豊作豊漁・悪霊退散を祈願して行われる。昭和36（1961）年に県の無形民俗文化財に指定され、昭和48年には文化庁の記録作成等の措置を講ずべき無形文化財に選定されている。